

拝啓 檀信徒の皆様におかれましては益々御清祥の事とお喜び申し上げます。日頃、眞観寺にお心をお寄せいただき有難うございます。

今年も早いもので年の瀬となり、新しい年を迎えます。

瑞光満ちる平成二十九年元旦、恒例の元朝護摩を観音堂で厳修いたします。

護摩祈願（護摩札）を御希望の方は、左記の「小見眞観寺元朝護摩」をご一読の上、同封のハガキに住所・氏名・年齢・願意を書いてご返送ください。

お申込みはファックス（〇四八―五五六―二二〇〇）でも受付けます。

複数体の申し込みの方は、眞観寺に申込書があります。折り返しお送りしますので、電話〇四八―五五六―二六七八までご連絡下さい。遠方の方には護摩札を郵送致します。送料は無料です。ご遠慮なくお申し込み下さい。

合掌

平成二十八年十二月

眞観寺住職 中村 重継

檀 信 徒 各 位

小見眞観寺元朝護摩

・ 日時 平成二十九年 元旦 第一座 午前十時

第二座 午前十一時半

（十二時半に観音堂を閉じます）

・ 場所 眞観寺観音堂 正観音菩薩御宝前

護摩（ごま）とは

護摩は正しくは「護摩修行」と言います。真言密教の修行の一つで、護摩火中に仏を招来し、御仏の真体を観じます。

護摩によって煩惱を焼き浄め、大厄を消除し、家内安全、身体健全、商売繁盛等、開運を祈願します。

護摩の願意について

護摩の願意は自由です。眞觀寺の護摩は祈願と滅罪の護摩です。左の代表的なお願ひがあります。

- ・ 災厄^{やくよけ}消除
- ・ 方除 (方位除け)
- ・ 家内安全
- ・ 交通安全 (記名御守)
- ・ 交通安全 (木札)
- ・ 身体健全
- ・ 良縁成就
- ・ 商売繁盛
- ・ 縁結び
- ・ 当病平癒
- ・ 心願成就
- ・ 合格成就
- ・ 就職成就
- ・ 工事安全
- ・ 労災絶滅
- ・ 従業員安全
- ・ 火難除
- ・ 禁酒
- ・ 御礼 (お願ひがかなったときに)
- ・ 盗難除
- ・ 禁煙
- ・ 延命長寿
- ・ 安産満足
- ・ 事業繁栄
- ・ 傷病平癒
- ・ 大願成就
- ・ 学業成就
- ・ 工場安全
- ・ 勝利祈願

| 男女大厄 | | | 大厄 | | | 小厄 | | | 厄年早見表 |
|----------|----------|----------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|-------|
| 後厄 | 本厄 | 前厄 | 後厄 | 本厄 | 前厄 | 後厄 | 本厄 | 前厄 | |
| 昭和31年生まれ | 昭和32年生まれ | 昭和33年生まれ | 昭和50年生 | 昭和51年生 | 昭和52年生 | 平成4年生 | 平成5年生 | 平成6年生 | 男性 |
| | | | 昭和59年生 | 昭和60年生 | 昭和61年生 | 平成8年生 | 平成9年生 | 平成10年生 | 女性 |

護摩札は一体に付き一願意です。護摩の準備の都合がございます。なるべく十二月二十八日迄に、お申し込み下さい。

護摩祈願料は三千円です。祈願料は申込時だけでなく、元旦に持参されても大丈夫です。

尚、遠方の方は護摩札の郵送(送料無料)と併せて銀行振り込みをご活用下さい。

群馬銀行 行田支店(374) 普通口座0178339 口座名義 シュウ)シンカンジ

く真観寺たよりく

葛退治かずらを行っています。

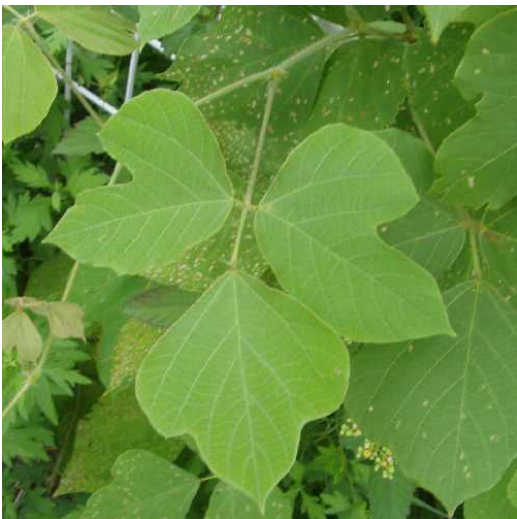
昨年は「松枯れ病の防止」について書きました。七年間有効な薬剤を松の木に注入したのをご記憶の方もいらっしゃるかと思います。薬の効果があつたのか、松の木は赤松一本を除いて、他四十五本は無事に夏を越しました。

一難去つてまた一難、数年前から小見真観寺古墳に右の写真の葉をした植物が覆い繁りはじめました。十年程前はそれほどでも無かつたのですが、四、五年前から急に勢いを増し、盛夏には古墳の大部分を覆う様になっていました。

つる草の一種と思つたので、ヤブカラシと同じく、刈れば枯れると思ひ時々刈つたり、葉から入つて効果を發揮する除草剤を撒いたり茎に注入したりしていましたが、何故か勢いが衰えません。

そこで、図鑑やインターネットで調べてみると、「つる」と呼んでいたのは「葛くず」である事がわかりました。

葛はマメ科の植物で蔓性つるの多年草なんだそうです。根は木質化し越冬用のデンプンを蓄え、直径10cm以上、大きな物では五十キロにもなります。大量のデンプンを使って春から夏にかけて盛大に蔓を伸ばすのだそうです。



葛(くず)の葉。三枚一組



蔓草に覆われるヤブツバキ。古墳北東面の様子

根を初夏に収穫すれば葛根湯に代表される漢方薬の材料になり、秋から冬に収穫すると、葛粉や葛餅、わらび餅になるようです。(この葛餅は本葛の葛餅です。川崎大師の久寿餅とは違います)

有用な植物だと知って喜びましたが、葛の根(「芋」、と呼ぶようです)を掘るのも、根からデンプンを取るのはとても大変な作業になる事もわかり、残念ですが駆除する事にしました。

駆除には遅効性の葛専用除草剤を打ち込みます。今、眞観寺に生えている葛の殆どは専用除草剤の打ち込みが終わっています。薬用食用目的で採取しないで下さい。

結果的にこのようになるまで放置してしまった事には原因があります。生えたばかりの葛のツルは自然薯のツルにそっくりなのです。秋田県出身の方から、「これは自然薯ですよ」と言われたのを「これは幸い」と喜び、二、三年間、葛を大事にしてしまったのがいけませんでした。後でも良いからよく調べないといけません、という教訓でした。

お線香は寝かせましょう。

御自宅の仏壇を礼拝する時に、お線香をあげます。この際に線香は寝かせた方が良いでしょう。本来、お香は灰の中に炭火を埋め、炭火に灰をかけた上に香木を薫じていました。香は平らな灰から立ち上がるものです。焼香は良い香りの香木だけで出来ている訳では無く、増量するために普通の木も混ぜています。お香に掛かる費用を削減すると、高価な香は減り、増量の木の品質も下がり、焚きにくくなるので、セレモニーホール等では直接火に触れさせています。

ともあれ、香は平らなところから立ち上がるので、立てるよりは寝かせた方が良いでしょう。寝かせると次の様な利点があります。



線香を寝かせた例

- ・線香が倒れず、火の用心に良い。
- ・灰が散らばらず、汚れない。

本当に良い事づくめです。立てた線香の火が消えるまで用心を絶やさなくても良くなります。

線香を立てるのは、禅宗が座禅の時間を、浄土宗が念仏の時間をそれぞれ計ったのが起源です。目的があって始まった立ち線香が、見た目が衝撃的だったので、広まったのだと思います。

この機会に、各ご家庭でご意見を統一し、線香の上げ方を決めて、礼拝されたら良いと思います。

具体的には次の様な手順となります。

- ・まず、灯明（ロウソク）に点火する。
- ・一本の線香を二つないし三つに折る。
- ・右手に持って灯明（ロウソク）で線香に点火する。
- ・火のついている方を左に向けて灰に寝かせ置く。
- ・その後、鈴を二丁（小さく、大きく）打つ。
- ・合掌礼拝する。

線香を寝かせる場合に用いる灰は『わら灰』となります。石灰いしばいでは重いので、線香の火が消えてしまいます。

毎年、秋に「般若心経をお唱えする会」を行っております。回によっては仏壇などで礼拝の作法を行います。詳しく知りたい方は、夏の終わりに案内のハガキが届きますので、御参加下さい。

夏も冬も快適な温度はおおむね一緒。

夏も冬も快適だと思える温度は23～25℃の様です。冷房28℃、暖房18℃は第一次オイルショックの時にかなり無理をして決めた数字です。眞観寺は、夏の法要は冷房のある客殿で、冬は合計で38kwの灯油ストーブが温めた本堂で行います。



『読経と戒名のお話』

今年最後の般若心経講は下池守持寶院の馬場隆法僧都をお招きして開催するとお知らせしました。ところが、馬場師の都合が急になくなりましたので、急遽変更する事といたします。

消費者庁が葬儀に関するアンケート調査を実施したところ、葬儀で一番重要な点(ポイント)が『読経』との回答がありました。

これは一度、読経について、檀徒の皆さんにお話をしていただいた方が良くと考えました。次回の般若心経講が丁度日曜日に当たりますので、読経と戒名についてお話し致します。

左記の日時で開催しますので、興味ある方は是非、御参加下さい。

『読経と戒名のお話』

日時 十二月十八日(日曜日) 十時～十一時半

場所 真観寺客殿

~~~~~ 来年の干支について ~~~~~

来年は酉歳とりです。昔の人は方位に十二支を当てはめて表しました。酉年にちなんだ話題を紹介します。

次ページの図のように酉とりは九時の方角です。客船や貨物船などの船は、船首を子ねの方向、船尾を午うまの方向と考えます。日本では進行方向左側への舵を古くは「酉とりの舵」。これが「取り舵」となりました。同じく右側への舵は「卯うの舵」。これが転じて「面舵」となったようです。現在では「とおおいかあじ」「おもおかあじ」と発音でも区別して誤操作が無いようにしているようです。

西洋では、船の舵の操作は混乱していた時期がありました。海賊船くらい昔の船の舵は艇て子こだったので、船の舵の把手とってを右に操作すると左に曲がっていた時代が長く続きました。その後、蒸気船の時代になつて、舵輪を回すと回した方向に船が進むようになったため、帆船から蒸気船への交代時期には意図せぬ舵の取り間違いからタイタニック

号の遭難をはじめ、様々な事故がありました。舵の取り方と船の向きが完全に一致したのはつい最近の事で、西暦二千年頃にニュースで「この度、国際的な取り決めが行われた」と報道されていました。それまで「舵を指示しても船がどちらに向くかは船員次第」の状態が百年以上続いてきたわけです。

さて、十二支を八方位の仏様に当てはめたのが干支の守り本尊である「八体仏」です。酉歳の守り本尊は「不動明王」様です。成田、高幡、不動岡の不動様で有名ですね。

不動明王は、釈尊が菩提樹下の坐禅中に身中の煩惱を焼きつくしている姿を現した明王様です。

真言密教では如来様は「三輪身」と言っていて一つ「仏(真理を悟り得た如来)」が「自性輪身」、「正法輪身」、「教令輪身」という三つの姿で現われます。「自性輪身(如来)」は、絶対の真理や悟りの境地を体現した姿です。「正法輪身(菩薩)」は、如来の境地をそのまま平易に説く姿を表しています。これに対し「教令輪身」は、仏法に従わない者を恐ろしげな姿で畏怖させ教え諭し、外道に進もうとする者はしよつ引いて内道に戻します。

不動明王は大日如来の教令輪身です。煩惱を抱える救い難い衆生でも、力づくで救うために、忿怒の姿をしています。絹索(ロープ)で煩惱を縛り、剣でたたき切って、後背の炎で焼き尽くします。

一年の最初に干支の不動明王に手を合わせ、煩惱を焼き尽くし、清々とした気持ちで新年を迎えましょう。



不動明王

酉年の守り本尊

「不動明王」

観音堂前の八体佛

